

新年のご挨拶

理事長 下村 卓司

皆様新年あけましておめでとうございます。年末から寒波が押し寄せ寒さ厳しい新年を迎えることになりました。当法人もインフルエンザが流行し、年明け早々ダウンするスタッフが続出しました。ご利用者に感染しないのが不幸中の幸いです。

さて、本年四月は前理事長の時代から当法人が念願としていたグループホーム『風鈴山荘』がオープンする予定です。写真にもあるように現在オープンに向けて実際に工事が進んでいます。このグループホームの大きな目的は、高齢化・重度化するご利用者の生活環境を改善することにあります。現在ゆらくの里の生活環境は四人部屋が中心で、一人あたりの専有面積も狭く、それによる対人トラブルが絶えません。また人権尊重の観点からも現状では人権侵害にもなりかねない状況です。前理事長もそのことを気にかけて、高齢者棟建設を目指しておりましたが、グループホームを開設してゆらくの里ご利用者が一部移住してゆらくの里の定員を削減することで一人あたりの専有面積を広げ、その後ゆらくの里を大改修して高齢者に対応できる設備を持たせるという計画に変更しました。その計画の一環としての『風鈴山荘』がようやくスタートできることになったわけです。本来であれば昨年にスタートする予定でしたが、東日本大震災や東京オリンピック誘致決定のおおりに受け建設費用が予想以上に高騰したため、設計図面の変更や申請書類の変更と複数回の入札により一年遅れの事業開始ということになりました。とはいえ、当法人が長期計画の中で最初になすべき計画が実施できるということは非常にうれしいことであり、またこれから実施していくべき計画の成否にかかわることであることから、グループホーム『風鈴山荘』の成功は必達事項となります。開設できる喜びよりも、必ず成功に導かなければならないという使命感のほうを強く感じております。

この『風鈴山荘』の開所という大きな変化とともに動き出すであろう当法人の変化をぜひご覧いただくとともに、わが法人のさらなる飛躍をご期待いただければと存じます。

介護保険報酬改定や福祉人材不足など、大きなマイナス要因もありますが、スタッフ一同一致団結し「万事入精」を合言葉に我々に課された使命を成し遂げる年度にしたいと考えております。

これからも当法人に対し、ますますのご指導ご鞭撻をいただきますようよろしくお願い申し上げます。



施設内研修

12月26日

以和貴会では、ゆらくの里の全職員を対象に、毎年8月と12月の年2回、職員のスキルアップを目的とした施設内研修を行っています。研修では、外部講師の方を招いて日々の支援や虐待防止のために必要な対人援助スキルなどを学び、すぐにでも実践で活かすことを目指しています。また、福祉に関連した研修だけでなく、社会人として基本的な言葉遣いや、電話応対などの接客に関するビジネスマナー、災害や緊急時に慌てず対応できるようAED講習や応急救護等の防災に関する研修も併せて行っています。

平成26年度の冬期研修では、『リラックスできる環境づくり』をテーマに「スヌーズレン」を学習しました。

「スヌーズレン」とは、五感（視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚）などを適度に刺激し、障がい者（児）だけでなく支援者や御家族を交えて相互に関わりながら、リラックスや脳や身体機能の維持向上・活性化・発達を促す取り組みを言います。その為の環境設定としてスヌーズレンルームなどがあります。スヌーズレンルームには、芳香剤やクッション、バブルタワー、LEDライトなどを用いたリラックスできる空間をつくり、その中では特に『受容と共感』の姿勢が重視されています。



リラックスした時間が出来ることで、生活にメリハリが生まれ、集中力や意欲の向上に繋がります。自閉症だけでなく、発達障害、精神、身体、認知症など、世代・性別を問わず効果があります。オランダやドイツなど福祉先進国と言われる先駆的な取り組みがなされている海外の各国では、既に有効性が証明された手法です。

日本ではスヌーズレンの設備が整った施設はまだまだ少ないのが現状です。しかし、大きな出費や特別な設備がなくても、工夫次第で海外で効果が出ている整った施設と同様の効果を期待することが出来ます。

今回学んだことを基本として、今後のグループホーム開設時や、今後控えるリフォームの際の環境設定に活かし、御利用者様のより良い生活に繋げていきたいと考えています。



スヌーズレン実例
(ホームページより)

研修担当としては、研修で学んだことを法人スタッフ個々が実践することで、ご利用者の真のニーズにお応えし、以和貴会の理念である「その人らしく、その人なりの人生を支えるために」が安心かつ安全に実現できるよう、これからも努めたいと考えています。

ゆらくの里 生活支援員 服部優樹

障害者支援施設

「ゆらくの里」

第2班：11月5日～6日

毎年2班に分けて旅行を実施しておりますが、今年の第2班は、車椅子を使用されるご利用者の参加が多いため、旅行中の移動を最小限に「ゆったりコース」として企画・実施いたしました。行き先は10月の第1班「活動コース（神戸・姫路方面）」と同じく神戸方面で、職員含め総勢75名の参加となりました。



1日目はメリケンパークで海を眺めたり買い物をしたりとゆっくり過ごし、フルーツフラワーパーク内のホテルで一泊。パーク内のイルミネーションに、参加されたご利用者様もご家族様も喜んでおられました。2日目は神戸空港で飛行機の離着陸の見学と売店でのお買い物を楽しまれました。

施設入所者の高齢化により、今回の旅行は近場となりました。移動距離が少なくなった分、観光やホテルでの時間をゆっくりと過ごしていただくことができ、良い旅行となったと思います。

※第1班は、10月15日～16日に実施

多機能型就労支援施設

「今人・我楽」

10月23日～24日

第3回目となった今年度の一泊旅行は、多くの利用者様のご希望で明石・神戸方面に行きました。天気にも恵まれ、1日目は明石焼き体験・須磨海浜水族園、2日目は王子動物園・南京街を存分に楽しむことができました。



宿泊先の国民宿舎では海の景色が一望できる展望風呂にゆったり浸かり、宴会のカラオケ大会で盛り上がり、日ごろの仕事疲れもふっとばしてしまいました。

お土産もいろいろなところで買うことができ、それぞれ自由に楽しんでいただくことができました。

第 42 回奈良県障がい者作品展

○ ゆらくの里

ゆらくの里、アート活動班「暖」では、9名の利用者様が日々絵画・造形制作に励んでおられます。活動では、アートの持つ力と可能性、作品制作を通して表現する力をご利用者様に発見して頂き、豊かな生き方や楽しみを常に自分のものとして頂ける活動を目指しサポートしております。

さて、平成26年も奈良県障がい者作品展に「暖」班のメンバーが、日頃から活動で制作された力作を出展し、みごと福本様、鍵谷様が優秀賞を受賞されました。

福本様が描かれた作品「僕らの地球自然が一杯」は、細部まで細かく点描画で描かれた大作です。そして鍵谷様の作品「お花畑に蝶々が一杯」は、ペットボトルを蝶と花の形に切り、カラフルで色鮮やかな色彩で彩られています。段々畑に咲き乱れる花々に舞い寄る蝶々が見る者を夢の世界に誘ってくれるような、立体感にあふれた作品です。

今回、お二人の受賞が今後の作品制作の励みに繋ることと思います。今後の「暖」のアート活動に、どうぞご期待ください。



「僕らの地球自然が一杯」



「お花畑に蝶々が一杯」

○ 今人・我楽・すみれの里



作成風景



平成26年奈良県障害者作品展工芸の部門にて、すみれの里は「ウサギとリスとドキンちゃん」で優秀賞を頂きました。メンバーは、山崎尚子様、三谷千恵様、小西加津子様、中武愛様、井上京美様、大村毅志様です。

この作品は約2ヶ月をかけて制作しました。発砲スチロールを集め、うさぎとりすの形をどのように作るか考えました。リスの顔は、ボールに新聞紙を貼って凹凸をつけ、その上にお花紙で作った花を付けています。腕や足、首などは串と両面テープで頑丈に貼り付けています。

作り始めはどうなるか心配しましたが、出来上がった時の安堵の気持ちとその後の「まさか賞を取れるとは！」の歓喜の思いは今も忘れません。皆で一生懸命取り組めたことが、この受賞になったと思います。このような体験が出来て皆さんありがとうございました。

ふれあいフェスタ

11月2日

○ ゆらくの里

11月2日、第19回香芝市ふれあいフェスタが開催され、ゆらくの里からも紙製品、陶器、ビーズブレスレット、絵画などを携えて出店しました。参加した利用者さんは出店の準備や片付けを手伝ってくださり、また午後からの突然のどしゃぶりの雨に、商品の雨よけをして下さるなど、スタッフと共に運営を頑張ってくださいました。それ以外にもボランティアの方や様子を見に来たスタッフにも助けられました。お客さんの中には「毎年ここで買うんです。」という方が何人かいらっしゃいました。「毎年ありがとうございます」と答えながら、出店の定着と地域に障がい者が普通に住むことが出来る『共生』の希望を感じることができました。



来年も利用者さんと共に出店したいと思います。

○ 今人・我楽・すみれの里

平成25年より「今人・我楽・すみれの里」としてブースを広げ、今回はパン・ラスク・綿菓子・洋菓子の販売に加え、ナチュラルカフェ「モンステラ」のミートパイ、モンステラファームの野菜を販売しました。天候がすぐれず13時過ぎに大雨が降りましたが、普段からの商品の好評が客足を伸ばしたようで、たくさんのお客様に購入して頂き、240,730円売上げることができました。同時に、今人・我楽・すみれの里では利用者様の余暇活動としても参加し、イベントや模擬店を楽しんで頂きました。来年も売上を伸ばせるように、またより多くの皆さんに楽しんで頂けるように計画したいと思います。



クリスマス会

12月13日

12月13日、第12回社会福祉法人以和貴会クリスマス会をふたかみ文化センターの市民ホールにて開催いたしました。

今年のテーマは『明日への架け橋』。明日はもっといい日が待っている、その明日につながる一日一日を大切にしようという思いを表しています。

エントランスでは、ご利用者様の作品や地域で大好評のパンなど数多くの品々が並べられ、見ていただけでも楽しくなる販売風景が繰り広げられました。人気商品が売り切れてしまい、お客様から「残念」と言われたことが心残りです。

クリスマスツリー点灯式から始まったクリスマス会は、地域から交流の架け橋としてご参加くださった畿央大学チアリーディング部ティンカーズのパフォーマンス、ボノボコーラスの皆様の華やかかつしっとりした歌声に続き、今人「そ〜じや」で毎日頑張っている仕事をしておられる井上様が、初参加とは思えない見事なピアノ演奏を披露してくださいました。



ティンカーズ!



井上様の演奏



ならんちゅ&ちゅらら〜

休憩をはさんで、知的障害を持つ子どもたちと、その保護者が中心となって活動しているならんちゅと、その指導・支援を行っているエイサーチームちゅらら〜の皆様が沖縄民謡演舞エイサーを披露してくださいました。力強い演技からたくさんの元気をわけていただきました。

そのあとは吉本芸人「じゃじゃうま」様の漫才に会場全体がおなかを抱えて大笑いしました。毎年ピアノの独奏でご参加くださる住吉様も、前半の井上様に負けじと美しい音色を聞かせてくださいました。

トリを飾って下さったのはゆらくの里家族会の皆様です。今年一年を振り返り、バンクーバーオリンピックから宝塚歌劇100周年、そしてお子様に大人気の妖怪ウォッチまで盛り沢山で会場全体を笑顔で一杯にしてくださいました。



今年の顔が勢ぞろい!
(ゆらくの里家族会の皆様)

公務でご多忙中にもかかわらず足を運んでくださった香芝市長 吉田弘明様からお言葉をいただいた後、エンディングは下村理事長と職員バンドの演奏による以和貴会のテーマソング「和をもって」を会場みんなで大合唱。地域の皆様とご利用者様そして職員、みんながこの曲を架け橋としてつながることができました。



香芝市長 吉田弘明様

法人全体で行うクリスマス会は今回が最後、次年度からは各事業所単位での開催となります。今回の経験を生かして、今後もご利用者の皆さんの笑顔を繋げていきたいと感じました。

すみれの里

地域利用者慰労会（お餅つき）

12月26日

すみれの里では、年末最後の行事としてお餅つきを行い、今人・我楽・すみれの里のご利用者さんへ配るお餅を準備します。今回は地域交流としてはぐらいぶとコテージをご利用の児童の方にも参加していただいて、杵と臼で餅つき体験をしていただきました。体験で搗いたお餅は、昼食であんこ餅にして召し上がっていただきました。

利用者さんの中にはおかわりをされる方もあり、みなさん満足しておられる様子でした。



ゆらくの里

新年会

1月9日



今年も新年会をご利用様に楽しんでいただくことができました。まず午前中にそれぞれの寮にてぜんざいを召し上がっていただきました。ご利用様の高齢化が進むにつれ、おもちゃも危険が伴うものとなります。そうした中でも楽しみにされているご利用様の気持ちを考え、もち米にうるち米を混ぜた、粘着性の少ない噛み切りやすく飲み込みやすいおもちゃを提供いたしました。食べやすいおもちゃはご利用様にも好評で、皆さんおいしそうに召し上がっておられました。

昼食は食堂でのお鍋です。普段はなかなか熱々のお鍋を囲む機会などない中で、新年会でのお鍋は特別です。スタッフもともにテーブルにつき、談笑しながらおいしい食事のひと時を楽しみました。

午後はいぶき寮にて映画鑑賞会、みのり寮では書初め大会を開きました。できあがった作品はそれぞれの居室や食堂を飾っています。また、いろいろな事情で帰省ができず、ゆらくの里でお正月を迎えた方にも社会に触れていただこうと、志都美神社へ初詣に出かけました。帰りにはファミリーレストランでの軽食も楽しめました。

ご利用様の高齢化が進むにつれて、今までと同様のやり方で楽しみの機会を提供することが年々難しくなってきています。そうした中でも、安心・安全を考えつつ職員間で連携を取り、知恵と工夫で今後もみんな一緒に楽しめる新年会を企画していきたいと考えています。



フルコース料理

1月2日



明けましておめでとうございます。今年のお正月もフルコースランチを実施いたしました。2009年（平成21年）から始めて7回目の開催となります。こうして続けられるのも支援スタッフ、厨房スタッフ、食材仕入れ業者、みんなの気持ちが「利用者様に喜んでもらいたい」と一つになるからだと思っています。そして毎回、私達の願い通り利用者様の素敵な笑顔を見ることができます。

この日は、いつもの見慣れた食堂がレストランに変わります。机には真っ白なテーブルクロスが敷かれ、心地いい音楽が流れ、スタッフは仮装してウェイターやウェイトレスとしてお給仕に徹します。いつも同じ食器のお盆に乗った給食ではなく、前菜から始まり、スープ、メインディッシュ、デザートと順番に運ばれてきます。

中には、待つのが苦手な方もおられますが、殆どの方は「次は何かな」と、楽しみに待っていてくださいます。そして、目の前に運ばれて来た時「わ～！おいしそう。」と驚かれたり、すごい勢いで頬張られたり。にっこり笑って「美味しい！うまい！」と言って下さいます。普段は食べない野菜を食べておられる姿や、ナイフとフォークを上手にを使ってステーキを食べられる姿、お皿に残ったソースをきれいに舐めておられる方も見られます。



この時間が、利用者様も私達も共に幸せを共有できる瞬間だと思います。

一年に一度だけのフルコースランチですが、来年もその先もずっと続けて行きたいと願っています。そして、この企画は私自身を初心に戻してくれます。誰の為にここで働いているのか、何を目標として働くのか・・・

今年も心新たに、より多くの利用者様の笑顔が見られる食事作りに励みたいと思います。

管理栄養士 米田なおみ

法人チャリティーコンペ

11月27日

第24回以和貴会チャリティーコンペが、宇陀市室生にあります「ムロウ36ゴルフクラブ」にて開催されました。理事をはじめ、日頃以和貴会へご協力いただいております業者の方など77名の方々にご参加いただくことができました。

プレイ終了後の宴席では、奥山博康理事よりご挨拶をいただき、福祉事業運営が今後さらに厳しくなっていく中で、新たな取り組みを進めていく活動的な法人であることをお話しいただきました。

ご参加くださった方々からのご協力の結果、約15万円の寄付が集まりました。また、ゆらくの里へ納品いただいております多くの業者様をはじめ皆様方からの景品提供のおかげで充実した大会が実施できていることを心から感謝いたします。ご協力ありがとうございました。

平成27年度で25回の区切りとなります。チャリティーコンペの開催に一区切りを置き、多様化してきた法人運営に邁進する所存であります。コンペとは別の形となりますが、変わらぬ支援を継続いただけますようよろしくお願い申し上げます。



以和貴会 新入職員紹介



しんがき きょうこ
新垣 恭子

所属 ゆらくの里 生活支援員
正職員

11月からゆらくの里で生活支援員として働いています。私の元気の源である前向き思考で、利用者様の個性を理解し支援していきたいと思っておりますのでご指導の程、宜しく願い致します。
11月8日入社

白ゆり会様寄贈

12月18日



『白ゆり会』様からの雑巾の寄贈も今年で22回目となりました。今回は香芝市市議会議員 上田井良二様も御同伴くださいました。タオルを提供してくださった方、一針一針心を込めて丁寧に縫ってくださった方、皆様のお心遣いに感謝しつつ法人各事業で使わせていただきます。『白ゆり会』様は法人の行事の際にいつもご協力くださっています。これからもご利用者様のためにお力を貸していただけますよう、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

《賛助会員ありがとうございました》

多くの方よりご寄附いただきありがとうございました。皆様方からの寄付を施設整備等、有効に活用させていただきます、ご利用者のために使用させていただきます。

《ゆらくの里》

谷口融正、川北司朗、正木護、増尾明弘、寺本四郎、樋田稔枝、宮地恵美子、永田恵美子、中筋廣次

《地域事業》

吉岡恵美子、黒川栄子

《業者ほか》

(株)ステップワン、(株)老松園、(株)タクサン、吉川自動車、(株)田原建設、テラセ訪問美容

(順不同、敬称略)

《賛助会員募集》

引き続き賛助会員を募集いたします。同封の振込用紙にて会費のお振込を是非お願い申し上げます。寄付金控除を受けるための領収証をご希望の方は「通信欄」にてご連絡ください。

《編集後記》

新年あけましておめでとうございます。厳しい寒さが続いています、木々をよく見ると小さな芽がたくさん枝についています。春の準備は着々と進んでいます。私達も春に踏み出す新しい一歩のために準備を進めていきたいと思ひます。

発行： 社会福祉法人 以和貴会
住所： 〒639-0261
奈良県香芝市尼寺616番地
編集責任者： 理事長 下村 卓司
Mail： office@yuraku.or.jp
発行： 平成27年1月